

令和元（2019）年度「不登校を考える学習会」報告

令和元（2019）年11月23日（日）：小郡市人権教育啓発センター
講師 木村 素也 さん（不登校生保護者の会「ぼちぼちの会」会長）

本年度も令和元（2019）年11月23日（日）に小郡市人権教育啓発センターで「不登校を考える学習会」の講演を行いました。演題として「不登校支援の輪を広げよう 不登校の何が問題なのか～不登校を難しくしているもの～」を講演させていただきました。地域の役員の方や保護者の方など60名ほどの参加者で熱心に講話を聴かれました。第2部では不登校経験者のインタビューや交流などが行われ充実した会になったと思います。



2019（令和元）年度「不登校を考える」学習会（第3回目）開催報告

今年度、3回目の「不登校を考える学習会」は、 木村 素也 先生を招いての講演会と交流会を行いました！



実施日：2019年11月23日（土）
場 所：小郡市人権教育啓発センター

木村素也さん（不登校生保護者の会「ぼちぼちの会」会長）から、「不登校支援の輪を広げよう～不登校の何が問題なのか・不登校を難しくしているもの～」という演題で講演をしていただきました。講演の中で話されたことを紹介します。

**【不登校が問題なのではなく不利益になることが問題。
だから、不登校が不利益にならない体制づくりを！】**

「きついなら学校に行かなくてもいいよ。」だけでは無責任な言葉になってしまう。子どもも親も、学校に行かなくなった時に生じる不利益を知っている。だから、何とか学校に…という思いをもつ。学校に行けていなくても、目標をもたせることや、目標達成のための情報発信・不利益を感じさせないような体制づくりが必要である。



【木村 素也 先生】

不登校によって生じる不利益

- 勉強の遅れ
 - ・勉強の遅れは復学の障害要因になる
 - ・進路選択の幅が狭まる
- 他人と接する機会の減少
 - ・コミュニケーション能力
 - ・生活の乱れ（昼夜逆転・ゲーム依存）
- 自己肯定感の低下
 - ・不安をあおる言葉（よかれと思ってかける言葉も…）
- 「不登校」のレッテルが解決を難しくする
 - ・間違った認識（何もできないとい誤解する）
 - ・周囲は将来の心配をするが、本人は今のことしか考えられない

「今、学校に行かなくても不利益ではない」という体制づくりや情報発信を！

- 成長モデルの提示を
 - ・不登校経験者でも、自分の目標を達成できた子はたくさんいる。特に教員は、そんな子どもたちとつながって安心できる情報発信をしてほしい。
- 子どもは、家庭・学校・地域で生きている。キーポイントは地域
 - ・例えば、公民館で学習や卓球などができる場所を提供しながらコミュニケーションを

不登校を経験した方への、インタビューコーナーもありました。



とにかく「教室に行こう」が嫌だった。気持ちはうれしかったけど受け入れきれなくて…。うれしかったのは「逃げ場」をつくってくれたこと。「ここまででもいいよ。」とかは気持ちが楽になったのを覚えています。



【参加者と木村先生を囲んで交流会も行いました】

- 参加者のアンケートより
 - ・不登校を問題にしているのは、私自身だったと改めて気がつきました。「不利益」にならないよう子どもができることを提案していきたいです。
 - ・不登校によっておきる「不利益」と向き合って考えていこうと思いました。無理な時は休みを取り、ゆっくりとりフレッシュさせてあげたいと思いました。

- 私の勤めている学校にも不登校の子がおり、関わる機会が多いので今の講話はとても勉強になりました。無理に登校させることはいけないと思いつつ、家の中にいることで不利益になることが多いと考えてしまう自分がいて葛藤があります。今日の話聞いて、環境づくりなど自分が出できことを考え、その子の目線で考えていきたいと思いました。
- 「不登校」と一言と言っても、世の中で理解されている印象と、実際にそういう子ども達と接している者（家族）との印象・現状はかけ離れていると改めて思いました。お話を聞いて、今の子どもたちの状態＝不登校の時の子どもの様子や気持ちを考えると、親の私でも理解できていなかったと思うし、安心して生活できる環境を整えてあげられていなかったのではないかと振り返り、涙が出そうな思いで聞いておりました。「気づき」をいただきありがとうございます。
- 不登校によっておきる「不利益」と向き合って、物事を考えていこうと思いました。無理な時は休みをとり、ゆっくりとりフレッシュさせてあげる大切さを考えないといけないと思いました。

- 不登校は不利益であるから、大人が「学校へ行かなくていいよ」と親が言っても無責任で不安が大きくなる。だから「不利益ではない」という社会モデルを提示すべきと思いました。木村先生のお話でストンと納得しました。努力すれば道は開けるというのを、子どもに示せばいいなと思います。
- 保護者として、どう子どもに声をかけていくか、どこに気をつけるべきかのポイントを改めて認識することができました。
- 不登校が不利益とならない社会をつくっていくことが大切ということを深く考えました。不登校を選んでよかったと言った黒田さんの言葉に助けられた感じがした方も多かったのではと思います。
- 「不登校」を問題にしているのは、私自身だったと改めて気づきました。言葉と心が裏腹なのは子どもに伝わるだろうし、余計に子どもを苦しめてしまうことにつながる。不利益にならないよう、子どもができることを提案していきたいです。
- 子どもの自尊心を高めていきたい。がんばっていることをちゃんと見て、そこを褒められるようにになりたいと思いました。
- 不登校は不利益という思い込みを自分自身が手放すことができるようになることが重要だと改めて思いました。
- 不登校になったらどうなるか、何が問題か、改めて考えさせられました。学校の先生からの傷つく言葉、どなる声により不登校になり一年になります。ひきこもってしまいました。親として対応の難しさを感じます。学校に責任があると学校側は認識していないことも多いと思います。
- 私の周りでも不登校の認識が低く、不登校=かわいそう・将来どうなる？と思われています。子どもが経験者なので、心理を理解することの難しさに家族で苦しんでいる現状です。今日少し理解できた気がします。
- 不登校の問題点「不利益による不安感」ということがよく整理されて腑に落ちました。学校の先生に「休んだらいいよ」と言われとても不安になっていました。教育機会確保法などができていて世の中が変わっていたんですね。不登校児になるまで、自分の問題となるとは思ってもみなかったのが、今回とても学習になりました。自宅にいて娘はいつも、どうやって生きていこう、どういう仕事に就こう、やりたいことがない…等いつも社会に出たらという不安でいっぱいの様子があり、学習支援センターができることを心待ちにしています。
- 途中、胸が痛い思いでした。今、中3の息子が不登校です。現状を理解できずお互いに苦しい日々を送ってきました。今は少し慣れてきましたが…。受験生でもありどうしていくかいろいろと考えていますが、なかなか難しいです。改めて息子を肯定してあげないといけない…と思い反省しています。認めることの大切さも感じました。
- ひきこもりの業務に携わっていますが、日々業務の中で悩み、どう支援していけばよいか考えているところです。今日のお話は、頭の中を整理したり、このような目線で支援しよう、保護者の方に伝えようというヒントをいただきました。